

あした 未来へつなぐ

【ゴミの再利用】

地球規模での環境保全のために私たちができること。
北海道の自然と人を守るために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

写真・文=本間 吾里砂



生ゴミを肥料の原料へと再生する発酵乾燥機。原料は石狩の肥料メーカーが製品化。実際に農家などで使われている。

「ゴミの再利用に取り組むJRタワー。めざすは『廃棄物ゼロ』」

北

北海道洞爺湖サミットの開催で、世界的に環境問題がクローズアップされた昨年。JR北海道でも省エネ車両の導入、パーク&トレイン駐車場の整備など、早くからCO₂削減に向けた取り組みを進めてきました。同サミットでは道路と線路を自在に走行でき

るDMVやハイブリッド車両ITTの走行デモンストラクションなどを行い、環境保全への企業姿勢を強力にアピール。

一日十六万人もの人が行き交うJR札幌駅に隣接した「JRタワー」も、エコをコンセプトの一つに誕生した大型複合商業施設です。



←発酵有機肥料
(サンプル品)



JRタワーに入居するテナントや飲食店のスタッフが分けしやすいうよう分別カートが並ぶ

運営するのはJR北海道グループの札幌駅総合開発(株)。プティックや飲食店、映画館、さらにはホテルやオフィスなどで構成されるそこは活気があつて華やか。しかし、その陰では地球環境に配慮した取り組みが人知れず続けられています。

地下二階部分に二カ所設けられた「再生資源室」では、タワー全体から一日に出る

約五トンのゴミを二十八種類に分別し、再利用するための活動を推進しています。

室内には何種類ものゴミ回収カートや、バクテリアの作用で数日後には生ゴミが肥料の原料になる発酵乾燥機が設置され、一方には専任のスタッフも常駐。店長会議などを通してゴミ分別に関する啓蒙活動を行ってきた結果、各テナントにも定着し、リサイクル化され、資源ゴミとなるゴミが年々増加しています。この一月には新たに再生可能紙の回収も始まりました。

昨今は小中学校や同業者の見学も増え、ゴミ減量の効果的手段として注目を集めています。最終的な目標は廃棄物ゼロの循環システム「ゼロ・エミッション」の実現。JR北海道グループは時代のニーズを見据え、常に環境保全の新しい形を模索しています。